

「こころで感じるスキンケア研究」の成果を語る

花王
スキンケア研究所
森河朋彦氏

花王では、スキンケア研究所・感性科学研究所・生物科学研究所・メイクアップ研究所から総勢数十名規模のメンバーが集結して「I・M（アイマトリクス）プロジェクト」を立ち上げ、様々な分野の専門家が協働することで新たな知見の獲得を進めている。I・Mプロジェクトではその一環として、「こころで感じるスキンケア研究（心感研究）」を進め、一定の成果が得られたことから、今年9月に行われた「第30回I・FSSC（インフセン）大会」にてスキンケア研究所の森河朋彦研究員が「Can your mind make you more beautiful?（感情で肌は美しくなるのか?）」という演題で口頭発表を行った。口頭発表では、「スキンケア時に生じる快感が肌を美しくすること」「快感を高めやすい感触のクリームを使うこと」「肌の2点にフォーカスして発表を行ったが、「成分の機能を高めることで肌を美しくする」という従来のアプローチとは一線を画した提案の目新しいさから、世界中から集まった研究者の間で大きな関心を集めたという。

化粧行為で生じる快感情は
肌状態を向上させる

近年、日本人女性においては、スキンケア化粧品（無色透明、さっぱり）の肌への効果が重視される一方、スキンケア行為による癒しの効果への関心も高まっていることから、同社では「スキンケアで快感情が喚起されるのか」に着目して研究を行った。

快感情に着目したモノづくりで
業界のさらなる活性化に貢献

前述の「快感情は肌状態を向上させる」という結果を受け、同社では、1つ目の試験（2015年5～9月）では、日常のスキンケア行動（触覚刺激）がヒトの心理・生理指標に及ぼす影響を調べるため、19～23歳の女性24名を対象に、化粧



森河朋彦氏

とりの同時高レベルで実現したクリー ムを開発し、その

その結果、クリームの使用により特に快感情が喚起されたグループ（上位20名）は、快感情があまり喚起されなかったグループ（下位20名）と比べ、肌の質感（つや、透

名）に分け、客観的な目視評価のトレーニングを受けた専門家が、肌の質を算出した。

動的快」の快感情が喚起されたほか、化粧水や水を塗布することで「リラックス」、化粧水の塗布とハンドプレスで「リラックス」「集中」の快感情が喚起されることがわかった。

2つ目の試験（2015年11～12月）では、ハンドプレスの継続により肌状態が向上するのかを調べるため、21～38歳の健康な日本人女性22名を対象に、朝と夜に通常通りのスキンケアを行って

3つ目の試験（2016年11～12月）では、ハンドプレスによって喚起された快感情によって肌状態が向上するのかを検証するため、23～48歳の健康な日本人女性20名に、朝と夜に通常通りのスキンケアを行って

科学的なアプローチでのみ捉えられてきたが、今回、ハンドプレスと心地よい感触のクリームにより生じた快感情でも肌を美しく導くことができることが示唆された。つまり、機能価値と感性価値という2つのアプローチを併用することで肌はより美しくなることから、快感情に着目したモノづくりがさらに進んでいけば、スキンケアの幅が広がり、業界全体が盛り上がるという。今後は、これまで同様、機能性の高い成分の開発を進めつつ、『スキンケアを楽しむ』という魅力的になる」というアプローチも用いてモノづくりを推進していく」と語

log scaleを用いて、快感情の感覚量の程度を評価値（快感情評価値）で表した。

その結果、素手によるハンドプレスによって、前頭前野の血流変化量が安静状態よりも有意に増加することが認められ、素手によるハンドプレス

条件と各コントロール条件の前頭前野の血流変化量の差分と、快感情評価値の差分とが、中程度の正の相関を示した。

3つ目の試験では、20～49歳の女性15名を対象に、スキンケア行為の一環として、塗布感触の異なる4種のクリームA、B、C、Dを前腕内側に

自身で塗布し、その際の脳血流変化量を、NIRSを用いて計測した。

これらの研究結果を踏まえて森河氏は、「スキンケア化粧品による肌効果は、有効成分など皮膚

なほ、ハンドプレス刺激は、1回15秒間、安静状態20秒間を交互に計6回実施してもらい、ハンドプレス中と安静状態の脳血流変化量の差分の標準得点を算出した。快感情の喚起度合いは、10 cm

Visualana

Visualana